

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

第2期喜界町まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

鹿児島県大島郡喜界町

3 地域再生計画の区域

鹿児島県大島郡喜界町の全域

4 地域再生計画の目標

本町は、鹿児島市から南へ約380km、奄美大島本島から約25kmの太平洋上に浮かぶ1町1島の町で、島の周囲は48.6km、面積56.94k㎡で現在も年平均約2mmの速度で隆起を続けているサンゴ礁の島である。

本町の産業は、亜熱帯海洋性気候の温暖な気候と整備された耕地を活かして古くからさとうきび栽培を主軸とした第1次産業を中心に発展してきた。最近では、地下ダムの豊富な水を利用したマンゴーやトマト等の園芸作物も生産量を伸ばしながら産地の確立をめざしており、畜産と合わせた複合経営が展開されている。また、さとうきびから作られる黒砂糖・黒糖焼酎、国内生産量日本一を誇るゴマの生産も盛んに行われている。

水産業では、一本釣りを主とした沿岸漁業を中心にソデイカやマグロ類等が水揚げされており、養殖業は、クルマエビや海ぶどうが主なものとなっている。

観光業では、国内に唯一のサンゴの研究機関である喜界島サンゴ礁科学研究所と連携を図り、ジオパーク等を活用しサンゴに特化した観光業を推進している。

本町の総人口は、昭和55(1980)年の11,169人から年々減少傾向にあり、平成27(2015)年には7,212人で、3,957人の減少となっている。住民基本台帳によると、令和3年1月には6,870人となっている。国立社会保障・人口問題研究所が平成30(2018)年に公表した推計によると、今後本町の人口は減少していき、令和42(2060)年には現在の人口の3分の1以下の3,716人になると予測されている。

自然動態については、死亡数が出生数を上回る「自然減」となっており令和元(2019)年には、出生数44人に対し死亡数119人で75人の自然減である。また、社会動態については、転出数が転入数を上回る「社会減」となっており、令和元(2019)年は転入数259人に対し転出数323人で64人の社会減となっている。

合計特殊出生率は、平成29年で2.46と県平均1.69、国平均1.43を大きく上回っている。

このように、本町では人口が緩やかに減少してきており、今後も減少することが

見込まれているため、地域経済の縮小や各産業の担い手・後継者不足、社会制度の破綻といった影響が懸念される。

持続可能な地域づくりに向けては、転入者を増やすとともに、雇用創出のための企業誘致や生みやすく育てやすい環境づくりなど、早急な人口減少対策の推進と重点施策への投資、それに加え、町の財政運営のバランスが重要である。

これらの課題に対応するため、本計画期間において、下記の基本目標を掲げ、町民の結婚・出産・子育ての希望の実現を図り、自然増につなげるとともに、移住施策の促進と安定した雇用の創出を図ることで、社会減の歯止めをかける。そして、地域経済の活性化と持続可能なまちづくりを目指す。

基本目標 1 きらりと輝くためのしごと創出

基本目標 2 きらりと輝くためにひとを呼び込む

基本目標 3 きらりと輝く世代を後押しする

基本目標 4 きらりと輝き安心安全なくらしができる地域をつくる

【数値目標】

5-2 の①に 掲げる 事業	KPI	現状値 (計画開始 時点)	目標値 (令和6年度)	達成に寄与する 地方版総合 戦略の基本目 標
ア	就業者数	3,505人	3,605人	基本目標1
イ	入込客数	60,418人	65,000人	基本目標2
ウ	子どもの数(0~17歳)	1,081人	1,081人	基本目標3
エ	「自分たちのまち」として愛着を感じている人の割合	73.8%	85.0%	基本目標4

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

- まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

喜界町まち・ひと・しごと創生総合戦略事業

ア きらりと輝くためのしごとを創出する事業

イ きらりと輝くためにひとを呼び込むための事業

ウ きらりと輝く若い世代を後押しするための事業

エ きらりと輝き安心安全なくらしができる地域をつくるための事業

② 事業の内容

ア きらりと輝くためのしごとを創出する事業

農林水産業は、本町の地域経済や雇用面でも果たす役割が大きく、若者等にとっても魅力ある力強い産業へ成長することが必要です。そのため、各分野において、生産拡大、販売促進、経営の多角化、担い手の育成・確保を図り、社会経済環境の急激な変化に耐えうることのできる、元気ある農林水産業を創出します。

さらに、地元で若い世代が安心して働ける雇用の場を創出するため企業誘致を推進していくとともに、やる気ある若者等が積極的に夢にチャレンジできるように創業、起業活性化等による創業機会創出に取り組みます。

【具体的な事業】

- ・企業立地支援事業、
- ・夢実現支援事業
- ・青年就業促進事業 等

イ きらりと輝くためにひとを呼び込むための事業

活力ある地域づくりに必要な人材を確保するためU I ターン希望者の呼び込みに積極的に取り組むとともに、移住者のニーズに対応した住宅・店舗等を空き家、空き店舗等を活用しながら、官民連携で受け入れ態勢を整備します。

また、島外から島に興味のある子どもを募り、離島留学生として、島の学校に通学させる。その受け入れのための寮整備を推進します。さらに、温暖な気候を生かし、島外からスポーツ合宿の誘致を積極的に推進し、そのための受け入れ先の施設整備を図ります。

【具体的な事業】

- ・Uターン促進事業、
- ・離島留学事業、
- ・移住促進空き家改修支援事業
- ・スポーツ合宿等誘致促進事業 等

ウ きらりと輝く若い世代を後押しするための事業

子育て世代に対しては、安心して子育てができる環境づくりを実現するため、妊娠・出産・子育て期間における経済的負担の緩和、子育て支援の充実など出産時や子育て時などライフステージごとに切れ目のない支援に努めます。

共働きを前提とした社会に向けた男性の育児参画支援など、ワーク・ライフ・バランスを実現し、結婚や子育てを望む若者の希望を叶える環境づくりを行います。

【具体的な事業】

- ・子育てサポート推進事業、
- ・こども医療費助成事業
- ・子育て預かりサポート事業
- ・妊産婦支援事業
- ・合同企業説明会事業
- ・国立大学進学応援事業 等

エ きらりと輝き安心安全なくらしができる地域をつくるための事業

地域住民自らの自主的、主体的な取り組みを支援し、活動の場を創出します。

また、地域活動を牽引する人材の育成、確保に努めます。また、地域で連携し住民同士で助け合うことが重要であるという、住民の防災に対する意識向上を図るとともに、住民と行政が災害情報を共有し連携・協働することにより、防災・減災を推進します。

【具体的な事業】

- ・集落活性化事業
- ・あなたとふるさとをつなぐ助成事業
- ・災害に強いまちづくり事業 等

※ 詳細は、「第2期喜界町まち・ひと・しごと創生総合戦略」のとおり

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄付の金額の目安

800,000 千円（2021 年度～2024 年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

【評価の手法】

事業のKPIについて、喜界町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員により、事業の結果を検証し、改善点を踏まえて事業手法を改善することとする。

【評価の時期及び内容】

毎年度の事業終了の翌年度8月頃に外部有識者（喜界町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員）による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針及び事業執行等に反映させる。

【公表の方法】

目標の達成進捗状況については、検証後速やかに喜界町公式WEBサイト上で公表する。

⑥ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から2025年3月31日まで

5-3 その他の事業

該当なし

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から 2025 年 3 月 31 日まで